

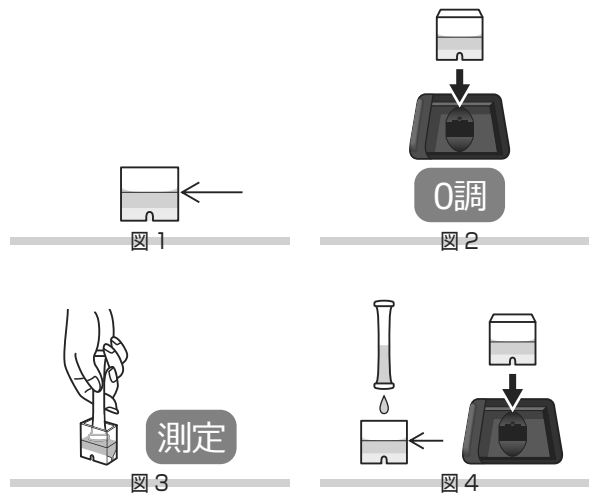
## NO<sub>2</sub>-N 亜硝酸態窒素

発色：無色→淡赤→赤  
 測定原理：ナフチルエチレンジアミン法 (GR 変法)  
 測定範囲：0.010 ~ 0.300 mg/L (ppm)  
 試薬：WAK-NO<sub>2</sub> チューブ  
 測定時間：チューブに吸い込み後 3 分

セル：専用カップ  
 使用波長：539 nm, 570 nm

### 測定方法

1. 【NO<sub>2</sub>-N】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5. のチューブを軽く5 ~ 6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図4)
7. 経過3分後に濃度が自動表示されます。



### 注意

1. 発色時の最適 pH は3 です。pH が2 ~ 9 の範囲をこえる検水は希水酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
2. 検水の温度は15 ~ 30℃で測定してください。
3. 亜硝酸は空気中にも存在し、純水にも溶け込んでいることがありますので、低濃度の測定には十分ご注意ください。

### 共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は影響しません。

一般に、亜硝酸イオンは、残留塩素等の酸化性物質とは共存しません、亜硝酸イオンが存在しなくても残留塩素およびクロロアミン類が存在すると赤く発色して亜硝酸と誤認する場合があります。

1000mg/L以下は影響しない	…B <sup>3+</sup> (ほう酸)、Ca <sup>2+</sup> 、Cl <sup>-</sup> 、F <sup>-</sup> 、I <sup>-</sup> 、K <sup>+</sup> 、Mg <sup>2+</sup> 、Mn <sup>2+</sup> 、Na <sup>+</sup> 、NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> 、NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> 、PO <sub>4</sub> <sup>3-</sup> 、SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> 、フェノール
500mg/L //	…Co <sup>2+</sup>
250mg/L //	…CN <sup>-</sup> 、Cr <sup>3+</sup>
100mg/L //	…Cu <sup>2+</sup> 、Mo <sup>6+</sup> (モリブデン酸)、Zn <sup>2+</sup>
50mg/L //	…Ni <sup>2+</sup>
25mg/L //	…Fe <sup>2+</sup>
10mg/L //	…Al <sup>3+</sup> 、V <sup>5+</sup> (バナジウム酸)
2mg/L //	…Cr <sup>6+</sup> (クロム酸)、Fe <sup>3+</sup>
少しでも影響する	…Ag <sup>+</sup> 、Ba <sup>2+</sup> 、残留塩素

### 試薬に関するお知らせ

パックテストに付属の使用方法をご参照ください。  
 測定液は約 pH3 です。